

### 第3回 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

日時：令和7年11月7日(水)午後13時～午後14時30分  
 会場：市役所西庁舎12階 西12D会議室

#### 1 出席者

【委員】(五十音順・敬称略)

所属・役職等	氏名
中京大学スポーツ科学部 准教授	倉持 梨恵子
日本福祉大学 大学院スポーツ科学研究科 健康科学部リハビリテーション学科 教授	小林 寛和
中部大学生命健康科学研究科 保健医療学専攻 准教授	松村 亜矢子
名古屋市立大学整形外科 主任教授	村上 英樹
名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学寄附講座 准教授	吉田 雅人

【行政関係者】

所属・役職等		氏名
スポーツ市民局	スポーツ推進部 部長	石原 治
	スポーツ推進部 担当課長	沓名 大介
	スポーツ推進部スポーツ振興課 課長補佐	増田 大樹

#### 2 会議次第

- 1 開会
- 2 参考資料
  - (1) 第2回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要
  - (2) 市のスポーツ施設配置状況等について
  - (3) 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み
- 3 議題
  - (1) スポーツ医・科学施設の主な機能について
  - (2) メディカル機能の望ましいあり方について
  - (3) スポーツ医科学施設の整備候補地について
  - (4) 持続可能な運営等について
- 4 閉会

### 3 議事概要

#### 参考資料

#### 参考 1 第3回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

○特になし

#### 参考 2 市のスポーツ施設配置状況等について

○各施設に配置されているスタッフ数・有資格者数がわかるとよい。

#### 参考 3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

○他の都道府県等におけるスポーツ科学センターの活動についても調査すると参考になるのではないか。

#### 議題

##### (1) スポーツ医・科学施設の主な機能について

- 取り組みの柱の3の、人材確保の表現は、利用者や市民向けというよりも、施設運営の観点のように見える。他の柱は、利用者や市民に向けた表現になっているので、対象者の表現はそろえたほうが、取り組みの方向性が整理されると思う。
- スポーツ庁が発信している「ライフパフォーマンス」という考え方が検討している施設機能と一致するため、このような時代に即したワードを取り入れるかどうか検討の余地がある。
- 「スポーツ傷害」という言葉については、表現の変遷等も踏まえて、「スポーツ外傷・障害」の表現を検討していただきたい。
- 資料1-2の市民向けの取り組みにおいては、「スポーツ」という表現だと対象が狭まる印象があるので、一般の方に馴染みやすいよう「運動」という言葉を入れるとよいのではないか。
- 資料1-2、資料1-3では怪我や不調で困っている個人が相談できる機能が反映されていないと感じた。

##### (2) メディカル機能の望ましいあり方について

- 資料2-1、2-2において、メディカルチェック、フィジカルチェック・フィットネスチェックの表現の整合性をとったほうがよい。また、フィジカルトレーニングサポートについても、コンディショニング・リコンディショニングという表現にした方が統一感がある。スポーツ版人間ドックから、医療に移る場合と、コンディショニングサポートに移る場合の分岐がわかるようなフロー図にできるとよい。
- 本施設の取り組みは、有疾患者以外も対象なので、医療行為で線引きするよりも、メディカルとコンディショニングで区分したほうがよいのではないか。トータルコンディショニングという考え方もある。

### (3) スポーツ医科学施設の候補地について

- 本施設にはパロマ瑞穂スポーツパークにある既存機能は作る必要がないと考え、本候補地は十分なスペースがある。
- 素晴らしい場所で、公共交通機関からも徒歩圏内である。一方、不調のある方やレベルの高い社会人選手は自動車を使用する方が多いため、駐車場の確保も重要。

### (4) 持続可能な運営等について

- 部活動の地域移行を踏まえた部活動への支援や、専門職を目指す大学生の育成の観点など、どこまで外部と連携していくのかの考えも記載できるとよい。
- 資金面や人材交流といった面においても、企業と連携できるとよい。
- 医療業界においても赤字の医療機関が増えているので、料金設定や運営体制は早めに考えておく必要がある。
- 企業に対してスポーツを通じた健康経営をサポートするコンサルティングをすれば、働き世代の方にもアプローチができ、スポーツ実施率向上につながるのではないかと。

### その他

- 専門人材の確保については、施設のコンセプトに適した人でないといけないため、施設機能やコンセプトの企画段階から考える必要がある。
- 先日、梅村学園の出身者で構成されるオリンピック・パラリンピアンのがが発足し、地域貢献や社会活動を行っていくこととなった。様々な世代に対応ができるため、連携できるとよい。

以上

# 他都市のスポーツ医科学センター等の 特徴ある取組みについて

参考2-1

## 北海道立総合体育センター

### ■北海道スポーツ医・科学コンソーシアム

北海道、札幌市、札幌医科大学、北海道スポーツ協会が中核となってコンソーシアムを組成。

道内スポーツ医・科学リソース(人材・サービス・施設・機関、組織)のデータベースを構築し、競技団体・ステークホルダーおよびアスリートを対象に、マッチングコンサルテーション等を実施



図は北海道スポーツ医・科学コンソーシアムウェブサイトより

## とちぎスポーツ医科学センター

### ■協力測定員養成プログラム

とちぎスポーツ医科学センター(TIS)で実施しているアスリートチェックの理論や実技を学び、競技スポーツにおける測定評価を行える人材を独自の制度で「TIS協力測定員」として認定。実際の測定業務に従事。

### ■協力指導員養成プログラム

トレーニング・リハビリテーション指導に必要な基本的な知識や技術を身につけ、質の高いトレーニング指導者を育成して「TIS協力指導員」として認定。実際の指導現場に従事。



写真はとちぎスポーツ医科学センターウェブサイトより

# 他都市のスポーツ医科学センター等の 特徴ある取組みについて

参考2-2

## いしかわスポーツ 医・科学情報センター

### ■コンディショニングアプリの導入

国民スポーツ大会出場選手などの強化選手を対象にコンディショニングアプリを導入し、選手が日々のトレーニング強度や体重、自覚的疲労度、睡眠時間などのデータを記録・管理。指導者とリアルタイムで情報を共有することで、練習プランの調整がスムーズに行え、ケガの予防や最適なパフォーマンスピーキングを実施。



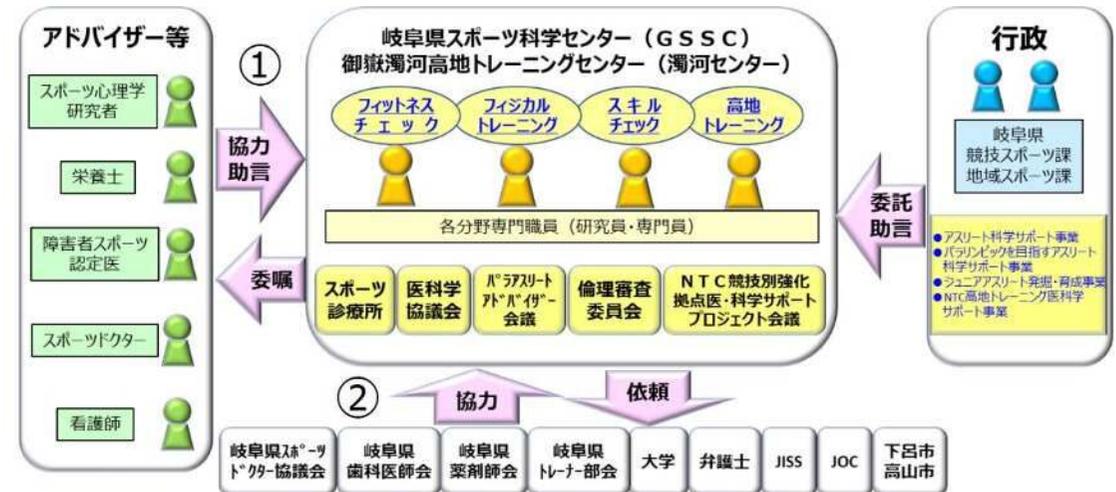
写真はいしかわスポーツ医・科学情報センターウェブサイトより

## 岐阜県スポーツ科学センター

### ■ナショナルトレーニングセンターとの連携

御嶽濁河高地トレーニングセンター(ナショナルトレーニングセンター高地トレーニング強化拠点として文部科学省から指定)の運営を受託。

フィットネスチェック(体力測定)、フィジカルトレーニング、スキルチェック(動作分析)、高地トレーニングの4分野は専門職員がおり、その他の専門分野は外部アドバイザーを委嘱して実施。

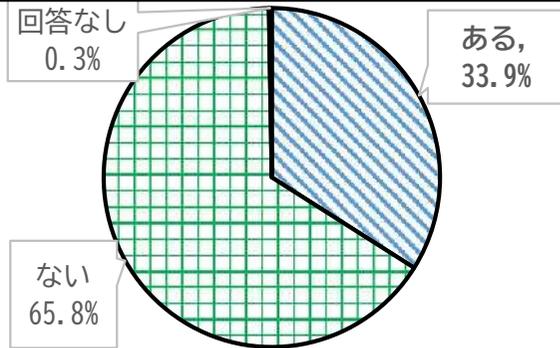


図は「地域におけるスポーツ医・科学支援の在り方に関する検討会議(第4回)」資料より

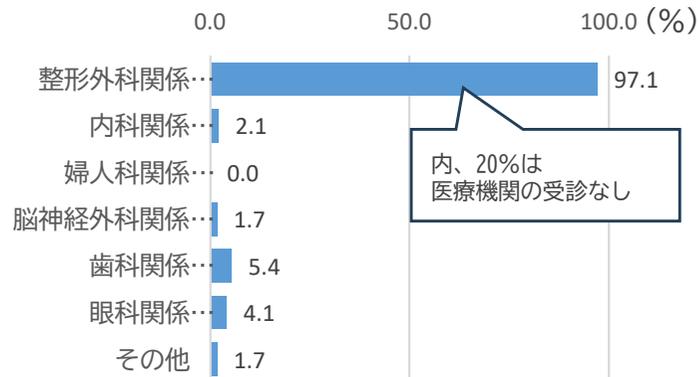
# 運動・スポーツと健康に関するアンケート結果(速報版)① 参考3-1

- ・調査期間：令和7年12月22日(火曜日)から令和8年1月9日(金曜日)
- ・調査対象：市内に居住する18歳以上の市民2,000人
- ・回収率：対象モニター数2,000人に対して有効回収数713人(有効回収率35.7%)

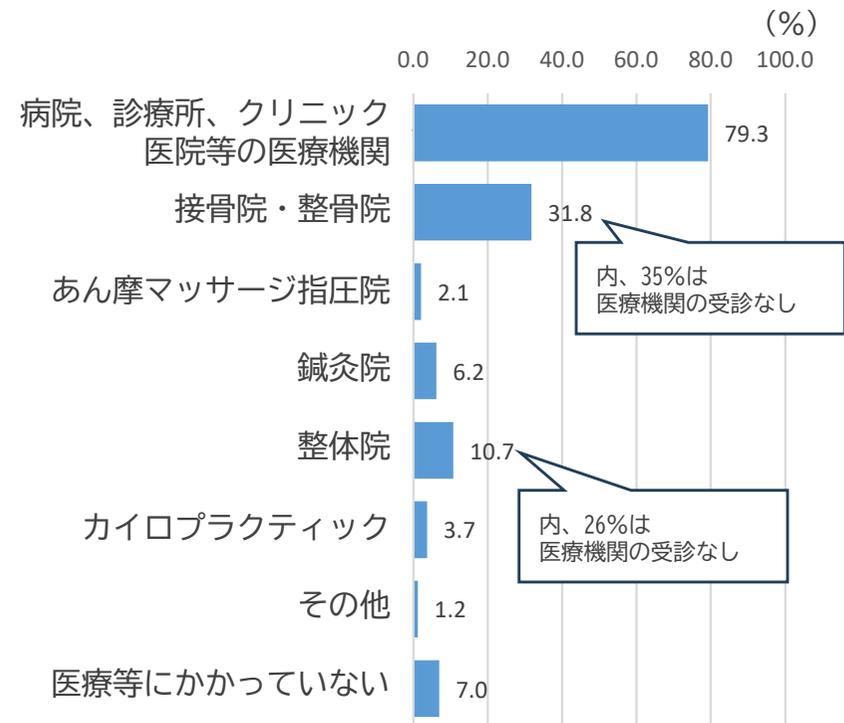
Q5 あなたは、スポーツ外傷・障害等を経験したことはありますか。(選択は1つ)



Q6 あなたが経験したスポーツ外傷・障害等は何のようなものでしたか。(選択はいくつでも)



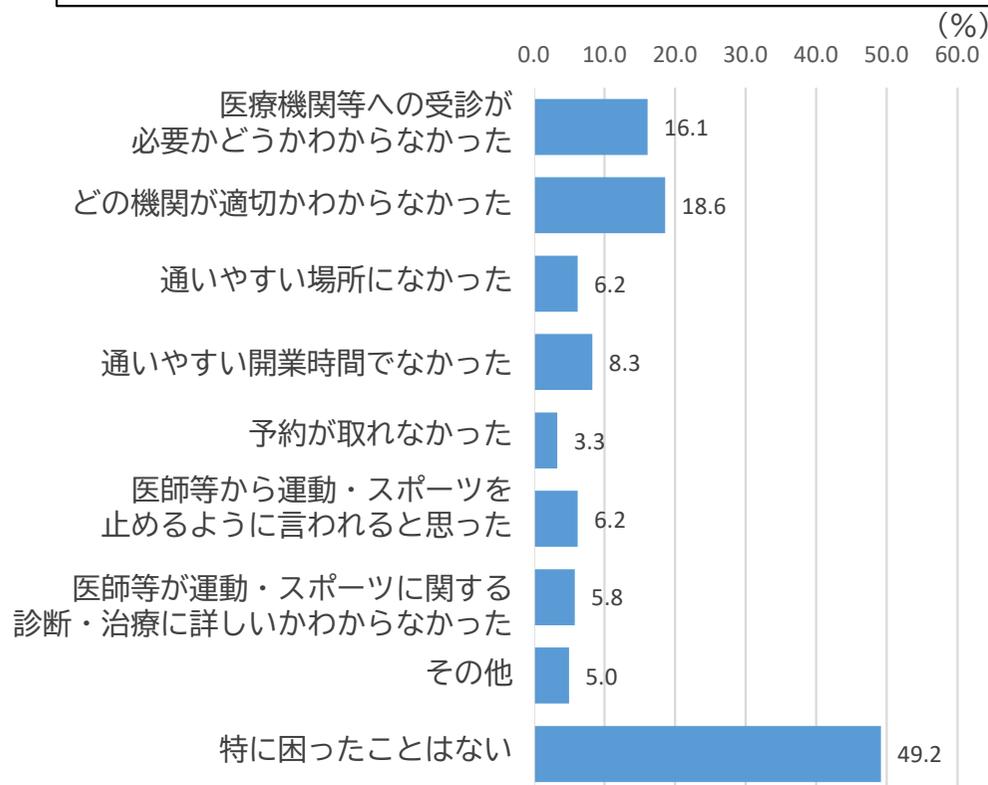
Q7 スポーツ外傷・障害等について、利用した機関はどれですか。(選択はいくつでも)



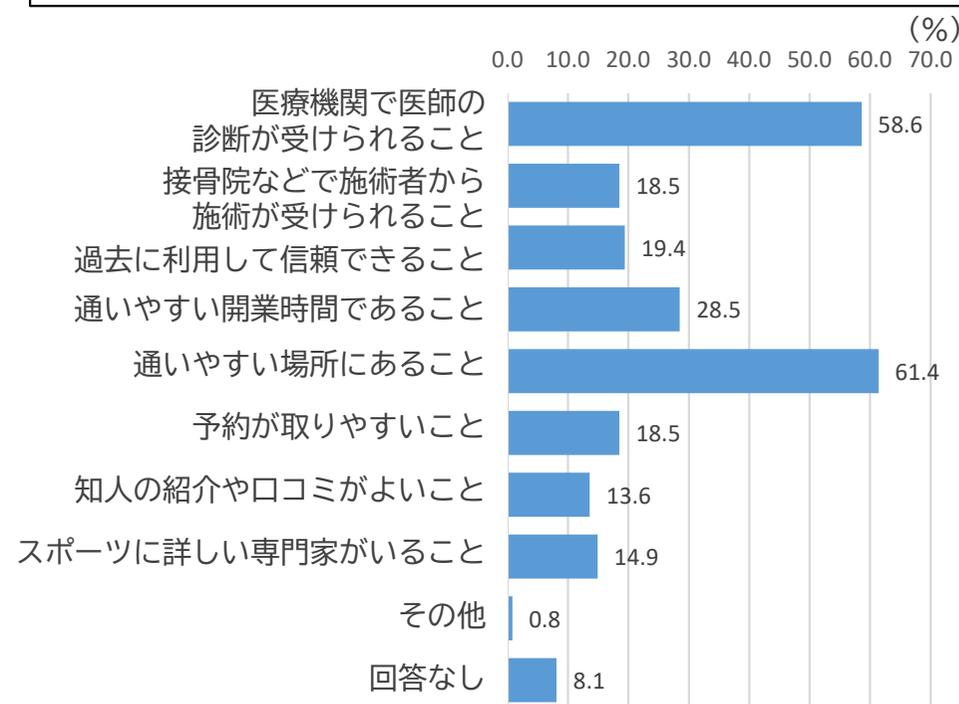
- ・3割以上の市民がスポーツ外傷・障害の経験がある
- ・スポーツ外傷・障害の内容については、整形外科関係が9割以上と大部分を占める
- ・病院・診療所等の医療機関を利用している方の割合が約8割であるが、医療機関を全く利用していない方もいる

# 運動・スポーツと健康に関するアンケート結果(速報版)② 参考3-2

Q8 あなたがスポーツ外傷・障害等を負った際に、医療機関等に関して困ったことはありますか。(選択はいくつでも)



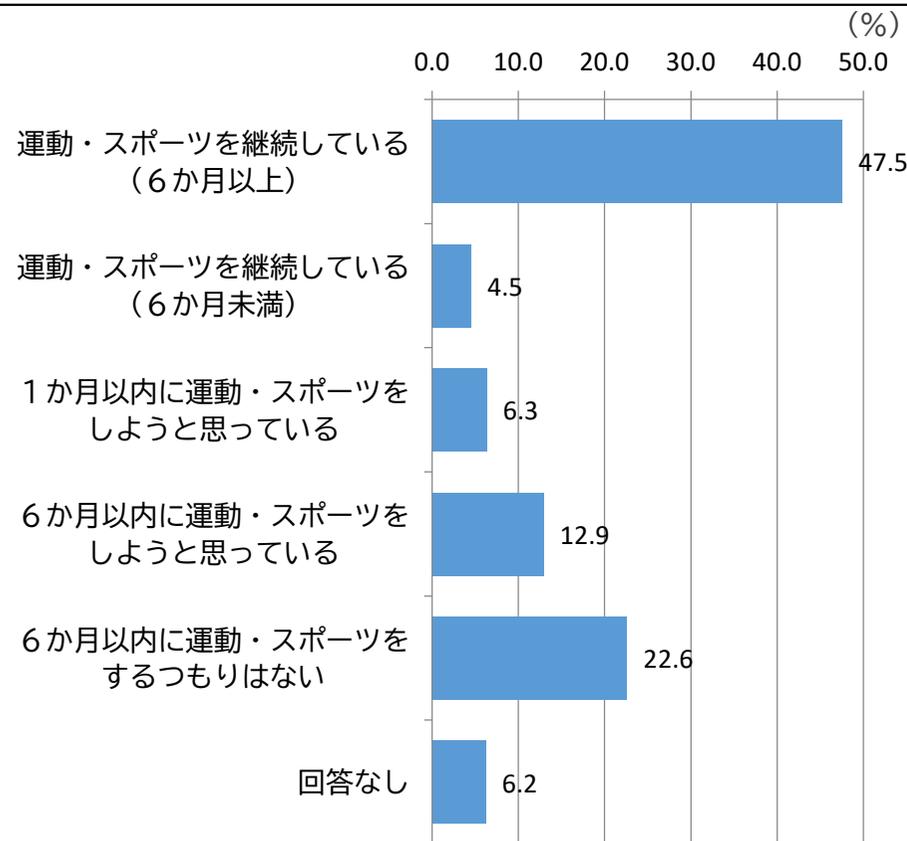
Q9 あなたがスポーツ外傷・障害等により医療機関等を利用する場合、重視する条件はなんですか。(選択は3つまで)



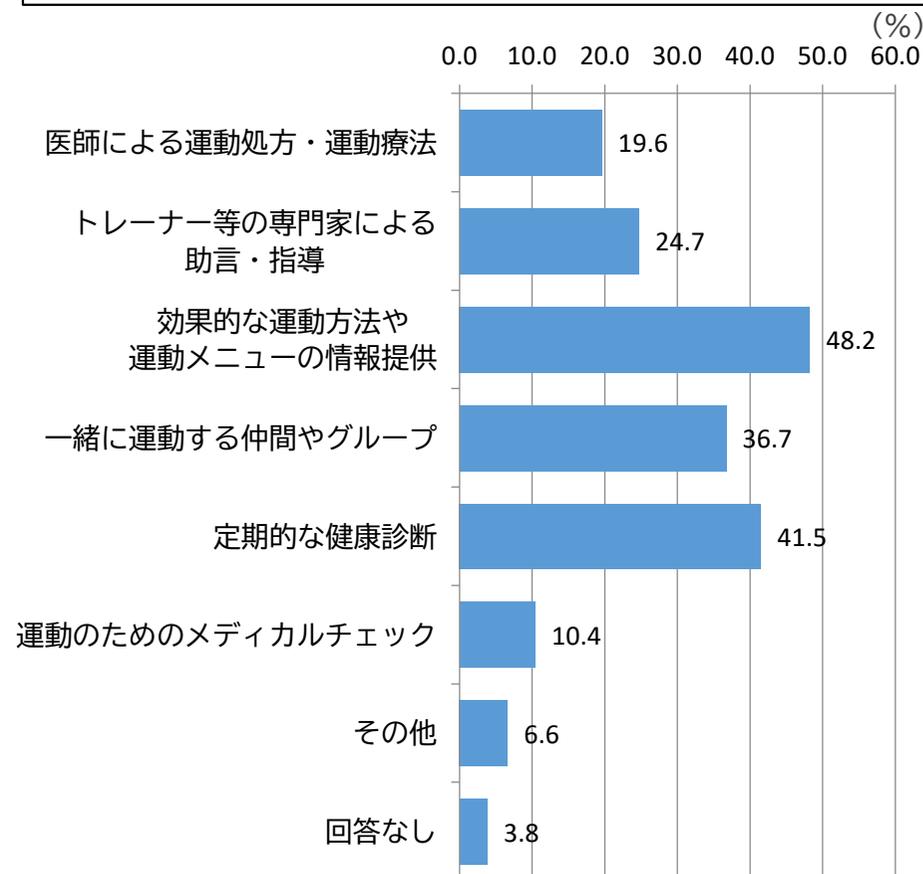
- ・医療機関等に関して困ったことについて、「特に困ったことはない」という回答は約5割に上る一方、どの機関が適切かわからなかった(約2割)、医療機関等への受診が必要かどうかわからなかった(2割弱)という理由が次いで多い
- ・医療機関等を利用する場合に重視する条件として、通いやすい場所にあること(約6割)、医師の診断が受けられること(約6割)、通いやすい開業時間であること(約3割)となっており、医療の必要性と利便性の双方が重要であることがわかる

# 運動・スポーツと健康に関するアンケート結果(速報版)③ 参考3-3

Q12 生活習慣病の改善や予防のために、運動・スポーツを行うことについて、あなたの現在の状況に最も近いものを選んでください。(選択は1つ)



Q14 生活習慣病の改善や予防のために、運動・スポーツを始めたり、継続するために必要だと思うものはなんですか。(選択は3つまで)



- ・運動・スポーツの実施状況については、「運動・スポーツを継続している(6か月以上)」方が約5割を占める一方、「6か月以内に運動・スポーツをするつもりはない」とした方が約2割となっている。
- ・生活習慣病の改善・予防のために、運動・スポーツを始めたり、継続するために必要だと思うものについては、「効果的な運動方法や運動メニューの情報提供」「一緒に運動する仲間やグループ」「定期的な健康診断」の割合が高い傾向がある。